

## かまくらささえあい福祉プラン 鎌倉地区懇談会 議事録

日 時 平成 30 年 2 月 20 日(火) 14 時 00 分～15 時 30 分  
会 場 福祉センター 第 1・2 会議室  
出席者 第一地区社協 9 名  
大町地区社協 5 名  
材木座地区社協 9 名  
第三地区社協 13 名  
地域包括支援センター 静養館 1 名 きしろ 1 名 社協 1 名  
推進等委員 川上委員長 国分委員 西崎委員 武井委員  
事務局 市社協 相川常務 山本主幹 佐藤事務局次長 河野 堀井 今井 佐々木

大町地区社協清田会長（推進等委員）より挨拶  
事務局より本日の出席者紹介及び懇談会の趣旨説明

### 議事概要

#### 議題

- (1) 講演 地域共生社会づくりに向けて  
資料に基づき講演（川上先生）

#### 議題

- (2) グループワーク

#### 【発表概要】

##### 〈A グループ〉

- ・新入学児童の祝い品を取りに行ったが、町内に一人しかいなかった。
- ・民生委員をしていた頃は高齢者の独居世帯を気にしていたが、今は逆に老老世帯の方が気になる。地域で見えてこないのが目がいっている。
- ・ゴミ問題に苦慮している。ふれあい収集はあるが、自治体は班単位で活動することが多いので、班の中で支え合いをしている。地域の支え合いを考えるには、自治会に入るのが大前提である。そこを鎌倉市のスローガンとして強調して欲しい。
- ・精神疾患の方が地域に入居されているが、不安定になると夜中に大声が聞こえたりする。隣の家にどのような人が居住しているのか、情報としてあると心構えが出来る。ワンルームマンションのオーナーが鎌倉市内にいないケースが多いので、そのような問題があると思う。投資の目的でこのようなマンションが多く建てられていて、昔は大家の顔が見えていたが今は全く見えない。自治会も協力していこうと思うが、掲示板を作ることは簡単にしてくれるが、地域の暮らし方や暮らし続けることについて一緒に考えようとする接点が見えない。ワンルームマンションやシェアハウスを建てている人たちが地域の支え合いを壊していく。
- ・最近若い人が増えてきてお祭りが出来る様になった。
- ・若い人は働いているので、動けるのは 60～70 代の人だが、そういった人がなかなか自治会に入っ

てくれない。

- ・地域の問題にはとても偏りがあるので、町内会で何でも解決してくださいと言うのは無茶である。解決出来る町内会もあれば出来ない町内会もあり、それぞれ濃淡が出てくるので広いエリアで地域のことを考えていかなければいけない。
- ・ボランティア活動をする時に、不慮の事故に対して家族からのクレームが怖い。活動が安心してできる、という事をもっと広めていかないとすそ野が広がっていかないのではないか。

#### (B グループ)

- ・観光都市の交通の話題が出た。特に長谷から由比ガ浜通りまでの商店街エリアについて。長谷の商店街から鎌倉女学院の交通が大きな問題になっており、依然より深刻になっている。
- ・海沿いエリアの災害の問題が出た。津波にどう対処したら良いかという話題が出た。市から配布された要援護者名簿の取り扱いをどうしたらよいのか、どう生かしたらよいのか、苦慮している方が多い。実際大災害が起きた時、要支援者へどう対応してよいのか分からない。
- ・自治体役員のなり手がいない。60～70代が多いので、今後どうなっていくのか不安である。
- ・高齢者の増加により、民生委員が高齢者の家を訪問しきれない。
- ・良い点として、各地区の自治会と地区社協のつながりがありまとまりやすく、会合、イベント、講座等々で自治会と地区社協で連絡が取りやすい。

#### (C グループ)

- ・自治会役員の問題が出た。自治会自体の存続できるか危うい。マンションの役員は1年交代なのでやってくれるが、その他の実行部隊のなり手が居ない。自治会への住民の理解がなされていない。チラシ等紙媒体物が多いので、回覧物自体辞めてくれという意見が出ている。
- ・無縁社会の中でワンルームのマンションはコミュニケーションが取れない。誰が住んでいるのか分からない。
- ・観光客の影響が生活に影響を及ぼしている。交通、トイレ、買い物の話が出た。観光客が増えるとお店は喜ぶが反面困る人も出て来る。
- ・ゴミ屋敷の問題が出た。
- ・計画は作るだけが目的でなく、実行しなければいけない。そのために大事なことは、作る側と実行する側の信頼関係が必要である。

#### (D グループ)

- ・防災関係の話題が出た。災害時要援護者名簿を受け取っている地区と受け取っていない地区がある。材木座、第3地区のような沿岸部の地区は津波を心配しているが、地区によっては2階に逃げれば大丈夫というように、住んでいる地域により捉え方が違う。
- ・区分けの問題が出た。地区社協、消防分団、防災により活動範囲が異なり困っている。
- ・以前は災害時の対策について積極的に考えていなかったが、昨今は話題も出てきているので、地域の方に声をかけている。自助を基本に、津波や災害時はまずは道路に出てもらうよう声かけをしている。
- ・災害時要援護者名簿の登録者数は昨年より倍になった。

- ・顔見知りになるための工夫として、アパート建設の際には家主に自治会加入を条件としているところもある反面、商店街は住民の出入りが激しいので、自治会加入は困難である。
- ・防犯パトロール活動を通し、民生委員以外の方が、独居の高齢者以外の家も訪問し見守り出来るような仕組みがある。
- ・レジュメに書かれていることは事実であり細かく分析されている。地域が崩壊していく中で、自治会と民生委員が協力してかろうじて地域が成り立っている。そこを理解していただきたい。

#### (E グループ)

- ・高齢化が進んできていて独居が増えてきている。家族が居る人は良いが、独居高齢者等災害時の要援護者支援について、市から一方的に話しが下りてくるので、把握したり何かしたりする時に手一杯になってしまう。本来は民生委員と自治会役員がコミュニケーションとる必要がある。しかしプライバシーの問題がありうまく出来ない。災害時の要援護者支援について、助ける人、助けられる人、調査する人が密に連携を取っていかなければいけないが、制度が漠然としていて役割が明確化されていない。
- ・自治会町内会として出来ることはどこまでか。レジュメに低所得や障害児、住宅のことなど色々書いてあるが、できることとしては元気な高齢者への対応が限界である。役所としてここまでやるから自治会町内会はここをお願いします、という形でコミュニケーションが取れるとよい。
- ・ある自治会では、3年に一度世帯の調査を行っている。世帯構成のみでなくアレルギーや持病が何かといった、細かいところまで民生委員と連絡しながらやっている。

#### 【まとめ】

##### (川上先生)

- ・皆様の意見を聞いて、やはり市や市社協へ対する信頼関係が出来ていないと感じた。これまでのかわり方が良くなかった。皆様との信頼関係の中で地域づくりが出来ていなかった。
- ・防災の名簿について、2011年の東日本大震災を受けて総務省が災害対策基本法を改正した。それに基づき、改めて手挙げ方式の要支援者名簿に載った人が地域に名簿を下ろした。そして地域で個別計画を立てるようにしたのが2012年に改正した災害対策基本法。個別計画を立てる前に個人情報保護法が壁になり、共有さえできていない。本来は一人一人についてケース研究的に地域の中で関係者が集まり話し合いながら役割分担を決めなければいけない。そこを行政が、個人情報を共有化しても大丈夫だという安心の担保を与えなければいけないが、ルール作りや交通整理もせずに住民に丸投げしている。行政が整理をして住民に投げかけて、その上で住民が出来る範囲のことを考えていく必要がある。鎌倉市だけでなく全国的にこの法律が空洞化している。国が縦割りのままで、省庁を超えて連携していないので市役所も連携できない。住民が判断しなければならないようになっている。
- ・海側に居住している人内陸部に居住している人、昔からの住宅の近所付き合いが残っているところに居住している人、マンションが多く住民の入れ替わりが激しい地区に居住している人では、不安感や活動のしにくさが異なるという事を感じた。
- ・消防分団、地区社協、防災の活動地区の線引きがずれている。学区が異なる地区もある。自治会町内会、民協、地区社協とそれぞれ単位が異なる。各縦割り行政の末端組織機能をそのまま住民

に押し付けている。住民の生活圏域感を考えずにやってきた。鎌倉市は色々なことがやりにくいと思う。

〈国分委員〉

- ・皆様の意見をどうやってまとめていくのか頭を悩ましている。1年で作り上げることが出来るのか、という事まで考えている。可能であればまた皆様と議論を交わしたいと思っているので、その節は宜しくお願いします。

〈西崎委員〉

- ・鎌倉市社協の中に福祉施設の部会がある。児童、障害、高齢者合わせて49の施設が参加している。それぞれの地域で交流しているが、厚労省が求めているのは、より公的な取り組みをすることである。施設部会、社会貢献部会を作り、施設部会で何が地域の中で何が出来るか検討している。支え合いプランについて言えば、福祉施設を地域の中で資源として活用してもらうこと、提供することを考えていきたいと思うので宜しくお願いします。

〈武井〉

- ・発表にあったように、これからボランティアを始める方に活動保険があることを広める、ことについてボランティア連絡協議会にて検討していく。

〈川上先生〉

- ・失った信頼関係を、計画作りを通して取り戻していきたい。
- ・来年末の計画が出来るまでにもう一回か二回、このような集まりを持ち、市として市社協として何が出来るか、また住民の皆様にご担っていただきたいことを相談させていただきたい。

以上